

ひまわり

通信



26ねん12がつ

～クリスマス 休戦～

皆様はクリスマスをどのように過ごされるでしょうか。お家の中で、お外で、グループで等、様々な過ごし方をされるのではないのでしょうか。忙しい現代人と言われて久しいですが、私の周りでは意外と家族を大切にしている家庭が多いと感じています。

さて、クリスマスとは「主の降誕」を祝うという意味で、主とはイエス様のことです。神様が人としてこの世にいられたことを毎年、想い起こして祝うのです。イエス様は神として人として、神と人との、和解と真の平和をもたらすためにいられました。

日本で最初にクリスマスが祝われたのは、フランシスコ・ザビエルが日本を離れて翌年1522年にトルレス神父のもと、今の山口市で催されました。その後、1587年バテレン追放禁教令が敷かれるまで、キリスト者も増えました。その間、「クリスマス休戦」という話がルイス・フロイスの「日本史」に報告されています。それは1566年、大阪の堺市郊外で、松永の軍勢と三好の軍勢が戦のために対峙していた時のことです。クリスマスになると、双方にいたキリスト者73名ほどの武士が、お屋に一堂に会してミサに与り、食べ物を持ち寄って交歓し、敵同士でありながら穏やかな時を過ごしたというのです。そしてその後、敵同士に分かれて戦ったとのこと。

古の日本人もイエス様の愛の教えを受け入れ、真の平和を実現したことを日本人として誇りに思います。真の平和とは問題がないことを求めるのではなく、何があっても大丈夫だよと関わり続けることだと云えます。

園長 福崎

～最高のおくいもの～

クリスマスは、イエス様がお生まれになったことをお祝いする日です。

各クラスのお祈りのコーナーには、赤・ピンク・水色の紙で作ったお花を準備し、それぞれをお祈りの花・親切の花・我慢の花として、どれか出来た時にプレゼントの箱に入れていきます。そして、そのプレゼントの箱は、クリスマスの日イエス様に捧げます。あるクラスでのお帰りの時でした。Aさんの女の子2人がどうしてもDさんの◎ちゃんと座りたい、でも椅子は2席しか空いてない。お互いに譲らず、その場所に立ったまま動きません。しばらく様子を見ていた先生、「みんなに提案があります。◎ちゃんと△ちゃんは、どうしても◎ちゃんと座りたいんだって。どうしたらいいとみんなは思いますか？」と子どもたちに聞きました。「譲ったらいいい」「我慢したらいい」「今日は、◎ちゃんが座って明日は、△ちゃんが座ったらいいい」、いろいろな意見がでました。しばらくして、「☆ちゃんが席を譲ったら三人とも座れる」という意見が出ました。Cさんの☆ちゃんが快く席を譲り、三人と一緒に座ることが出来ました。すると周りの子どもたちが「☆ちゃん自分の席を譲ってくれたんだよ。我慢のお花をいれようね」また、「親切なお花も入れたいね」と子どもたちから素敵な言葉が出てきました。その様子を見ていて、「子どもこそ」最高の神様からのプレゼントだと思いました。

主任 福留



今年1年の感謝をクリスマスのミサでお祈りいたしましょう。

☆聖夜ミサ☆ 12月24日(水) 午後7時より

☆降誕ミサ☆ 12月25日(木) 午前10時より

☆モーツァルトミサ曲☆ (オーケストラ付き) 12月28日(木) 午前10時より

谷山カトリック教会にて

～Aの部屋～

クリスマスツリーを制作するにあたって、幾何立体の三角すいから作っていく作業を準備しました。「この1枚の紙からこの形が出来ます。」いわゆる立体の展開図を描かなくてはならないのですが、たいていの子どもがしばらくの間立体を眺めています。その後、立体の一面一面を型どっていきものの、繋がっていないかたたりで悪戦苦闘！遠くから作業の様子を見守ります。そして、ツリーの形と同じになった時、子どもの顔から晴れ晴れとした笑みがこぼれていきます。すんだ！できた！わかった！の本当の喜びは、次への確かなステップです。時間がかかってもじっくり自分の力で考えて行動する経験の貴重さを、子どもがしっかり教えてくれます。

藤田

～まりあぐみ～

まりあ組は、ダンスや歌が好きなお友達がたくさんいます。12月に入りクリスマス会のお遊戯を覚え始めたB・Cさんたちは給食を食べ終わるとすぐに、「先生！トレロカモミロかけて！」「次はスープ屋さん」とお帰りの前まで何度も何度も踊っています。Aさんたちも「◎ちゃん！私にも教えて！」とBさんCさんに声をかけ、「もう1回！」と楽しそうに踊っています。踊る喜び、お友だちに教えたり、教わったりする喜び。子どもたちの表情はとても輝いています。

今村

～くららぐみ～

Aさんたちがクリスマスパーティーに向けてクッキー作りをしました。その中でAの〇くんは、登園時間を守る、生地をねかせるなどの経験からクッキー作り以外の場面でも時間を意識して過ごすようになりました。クッキー作りがその時のことだけにとどまらず、日常生活の様々なことに活かされていることをうれしく思いました。

浅井



～ペとろぐみ～

「サンタさんって遠い外国からくるのかな？それとも神様なのかなー？ねーねー☆ちゃんはどう思う？」と給食を食べながら楽しそうに話す子どもたち。子どもたちの会話は、夢がいっぱいです。お部屋では、サンタさんにお手紙を書いたり、クリスマスパーティーで食べるクッキーを焼いたりしています。そんな中、クリスマス会に向けて練習を頑張っていた子どもたち、無事本番を終えてまたひとつ成長した表情でした。また、3学期も子どもたちと楽しく過ごしていきたいと思えます。

有田

～てれじあぐみ～

寒さに負けず外で遊ぶ時も、鬼ごっこなどの体を温める遊びをする子どもが多く見られるようになりました。お部屋では、クリスマスに向けてリースやツリーなどの飾りを制作したり、はた織りをしたりしています。お祈りコーナーでは、馬小屋でマリア様、ヨゼフ様に見守られ、イエス様が誕生した様子のレプリカを置き、クリスマスまでにイエス様へお祈り・親切・我慢のお花を毎日一枚ずつ自分を振り返ってプレゼントします。子どもたちの中では、Cさんのスープを間違えて溢し、戸惑っているBさんの様子を見て誰が言うわけでもなく、素早く雑巾を持って来て床を拭いてあげるAさんの姿や、エプロンのヒモを解けず困っているCさんを助けてあげるA・Bさんの姿が見られました。クリスマスに関係なく、これからも子どもたちのきれいな心が増えていくことをお祈りしていきたいです。

田畑

～あぐねすぐみ～

12月に入り、「クリスマス＝イエス様のお誕生日をお祝いするために、どんなことができる？」と子どもたちと話し合いました。「お祈り」「やさしい心になる」「プレゼントをつくってあげる」「おめでとうっていってあげる」…その一つひとつの答えから、自分がしてもらって嬉しい体験からの気持ちが込められているように感じました。お友だちも、イエス様も自分のように大切にしたいという子どもたちの願いが強く伝わってきた時間でした。クリスマスに向けてお部屋の飾りを作ったり、心の準備をしている子どもたちの姿から、改めてカトリックの精神、宗教教育の大切さを感じました。

二宮

～もにかぐみ～

12月に入り、クラスではAさんたちのクッキー作りが始まりました。粉を量ったり、混ぜたり、卵を割ったり、型を抜いたり…心をこめて作るAさんの周りにはいつも目を輝かせて見つめるBさんCさんDさんの姿がありました。生地作りの際、混ぜ方を「切って切ってひらがなの“の”を書くように混ぜるんだよ」と伝える言葉と姿を見ていたCの☆くん、混ぜ方の違うAさんに「切って切ってこうするんだよ。」と教えていました。大人の何気ない行動も言葉もしっかり吸収していることを改めて感じさせられた日でした。☆くんがAさんになった時は、きっとパティシエのような手さばきでクッキーを作ってくれるかもしれません。終園日にあるクリスマスパーティーでは、Aさんたちが作ったクッキーと紅茶をいただきます。

森山



～よはねぐみ～

「先生あのね、つらい時には神様がすぐそばで“大丈夫だよ”って応援してるんだって！」Aの△ちゃんが、泣いているCさんのお世話をしながらそう話してくれました。それを一緒に聞いたAの〇君、「そうだよ、だから必ず泣きやむでしょう？神様ってすごいよね！」とのこと。クリスマスを通して、神様をより身近に感じている子どもたち。日常生活の中で、目に見えない存在を大切に、周りの人の気持ちに自然と寄り添える姿を見せてくれ、心が温かくなります。

森永

★絵本の紹介★ Vol.1



★ Aさんへ

「急行北極号」

C・V・オールズバーク

絵がとてもきれいです。クリスマスイブに少年におきる不思議な出来事は、子どもたちの想像の世界を広げます。村上春樹の名訳で味わう世界の名作絵本です。

★ Bさんへ

「クリスマスのふしぎなはこ」

長谷川摂子

僕がクリスマスの朝見つけた箱の中には…サンタさんが家に近づいてくる期待感いっぱいのお話です。

★ C・Dさんへ

「まほうのきののみ」

丸山明子

まほうのきののみを通して、森の動物たちの心がゆれ動きます。みんなで力を合わせる喜びを感じ、やさしい気持ちになれるクリスマス絵本です。

Aぐみ・Aさん→年長児
Bぐみ・Bさん→年中児
Cぐみ・Cさん→年少児
Dぐみ・Dさん→満3歳児



学校法人カトリック学園 ひまわり幼稚園

〒891-0113 鹿児島市東谷山3丁目31-13 TEL:099-268-2340 FAX:268-2333